北海道百年記念塔を守る会 様

謹啓 新春の候、貴会ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

さて、北海道百年記念塔の解体は2018年、高橋はるみ元知事の時に決定されました。塔の老朽化が進んでいるため、利用者の安全確保や将来世代への負担軽減が理由とされています。もちろん、記念塔に愛着を持ち解体を惜しむ声があることは承知しています。一方、アイヌの人々にとっては、受難の歴史への配慮に欠けた建築であり撤去を望んでいることもうかがっています。

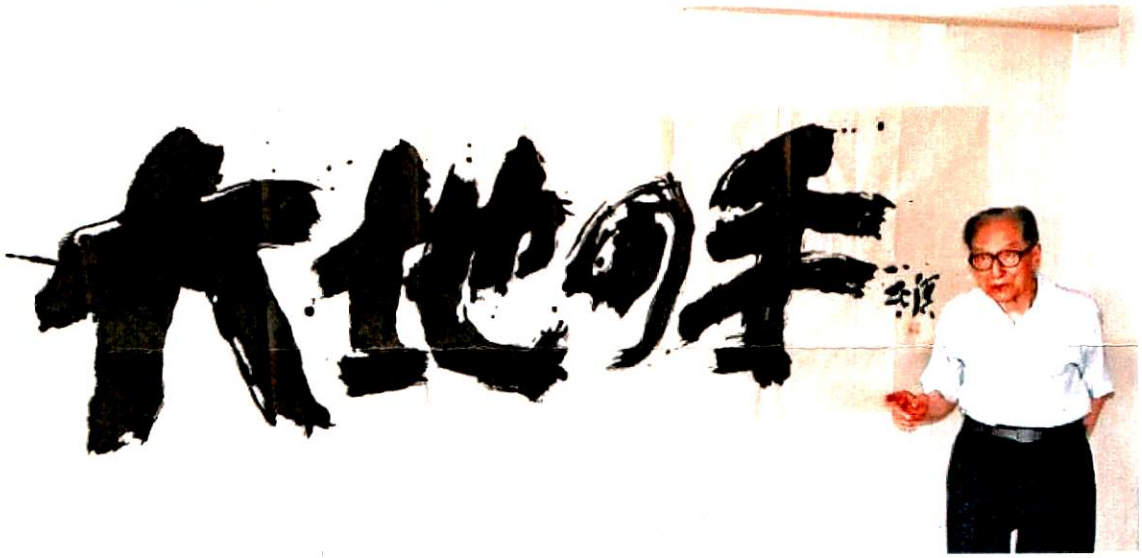
私は、2011年に東京から北海道へ移住してきました。当初は、この塔に格別の思いを抱くこともなく眺めていた、いわばよそ者です。記念塔の解体をめぐって賛否があるとしても、この塔の存在に心を痛める人々がいて、誇りを傷つけているならば、私はその声を真摯に受け止めたいと思います。北海道の先住民族アイヌの誇りが尊重される社会が実現されることは、あらゆる人々の尊厳が守られる社会に通ずると考えるからです。そのような理由で私は、百年記念塔を解体した上で、民族共生の時代にふさわしいモニュメントを残すべきだと思います。

モニュメントといえば、百年記念塔のすぐ近くにある「大地の手広場」があります。今から50年前の1973年に建てられ、5千有余の人々の手形と名前、記念の言葉が刻まれたレリーフが並ぶモニュメント広場です。国籍、民族、性別、年齢を問わず有名無名の方々の手形が並び、元横綱大鵬の故納谷幸喜さんや作家の渡辺淳一さん、歴代の元知事の手形もあります。2013年には、新たに石碑が設置され、日本を代表する書家の中野北溟先生が揮ごうした「大地の手」の力強い文字が刻まれました。「大地の手」の原本は今、道議会の1階ロビーに掲げられどなたでもご覧いただけます。

私は、ここに次の世代を担う道民の手形を加えて、共生の大地・北海道にふさわしいモニュメントに作り上げてはどうかと思います。

敬具

2023年3月23日

池田 まき

石碑のために書き上げた書と揮毫した中野北溟さん